

# 東北地方 3か月予報

(11月から1月までの天候見通し)

平成20年10月23日  
仙台管区気象台発表

## <予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。  
東北日本海側の降雪量は、平年並または少ない確率がともに40%です。

11月 天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雨の日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

12月 東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

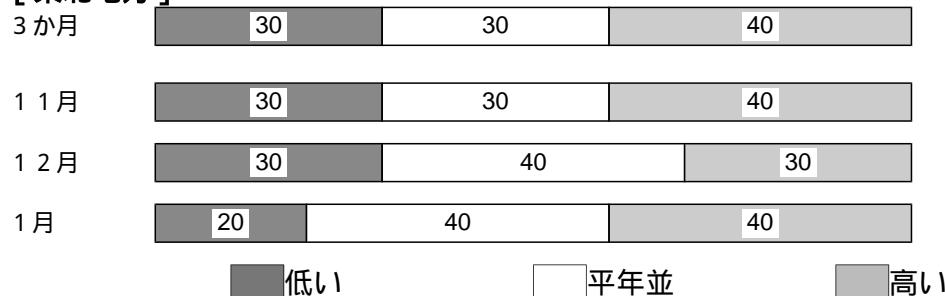
1月 東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は平年に比べ曇りや雪または雨の日が多い見込みです。

気温は、平年並または高い確率がともに40%です。東北太平洋側の降水量は、平年並または多い確率がともに40%です。

## <向こう3か月の気温、降水量、降雪量の各階級の確率(%)>

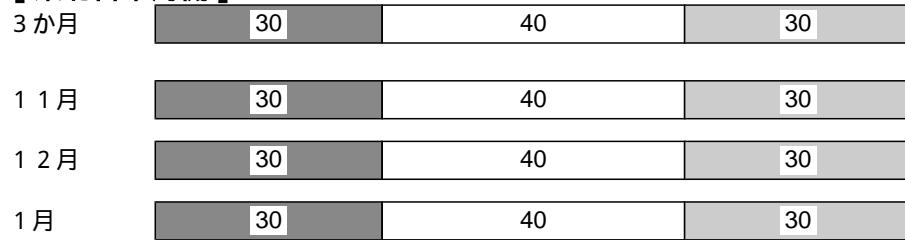
### <<気温>>

#### [東北地方]

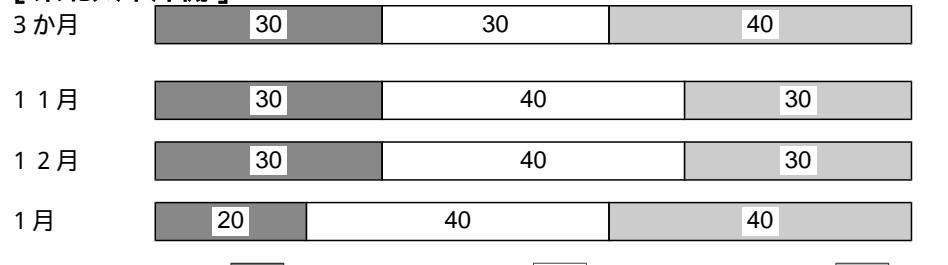


## << 降水量 >>

### [ 東北日本海側 ]



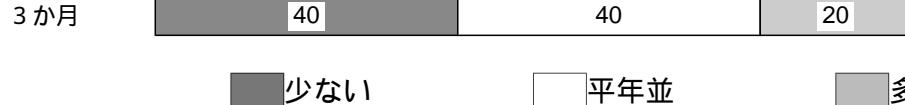
### [ 東北太平洋側 ]



■ 少ない □ 平年並 ■ 多い

## << 降雪量 >>

### [ 東北日本海側 ]



■ 少ない □ 平年並 ■ 多い

## < 次回発表予定等 >

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は10月24日

3か月予報：11月25日(火) 14時

11月の予報については、新しい資料による次回以降の1か月予報を適宜ご利用ください。

なお、最近の天候経過と新しい予測資料をふまえ寒候期の天候について検討しましたが、9月25日に発表した寒候期予報の内容に変更はありません。

## ＜参考資料（平年並の範囲等）＞

### （1）平年値（月・3か月平均気温、降水量、日照時間、降雪量）

	気温( )				降水量(mm)				日照時間(時間)			
	11月	12月	1月	11月～1月	11月	12月	1月	11月～1月	11月	12月	1月	11月～1月
青森	6.4	1.3	-1.4	2.1	131.7	148.6	144.9	425.4	91.4	54.7	56.7	202.8
深浦	7.5	2.5	-0.4	3.2	147.2	126.2	96.9	367.4	71.4	34.3	31.3	137.3
むつ	6.3	1.2	-1.6	2.0	115.4	93.3	96.0	304.4	106.5	73.7	77.0	256.6
八戸	6.6	1.6	-1.2	2.4	61.2	41.7	48.2	150.1	136.5	128.4	134.5	400.8
秋田	7.6	2.8	-0.1	3.4	183.5	163.8	114.4	459.4	84.7	47.6	44.6	177.4
盛岡	5.7	0.8	-2.1	1.4	93.1	64.5	50.6	206.9	118.8	104.4	124.0	347.7
大船渡	8.2	3.5	0.7	4.1	104.5	36.9	43.5	186.5	139.5	139.6	148.6	427.8
宮古	7.7	3.0	0.2	3.7	85.6	39.9	52.6	176.4	146.3	151.6	163.6	462.0
仙台	9.1	4.3	1.5	4.9	66.8	26.4	33.1	128.8	140.2	144.7	151.3	435.5
石巻	8.3	3.4	0.5	4.1	65.1	24.8	33.1	123.4	149.3	155.4	167.6	471.6
山形	7.2	2.4	-0.5	3.0	80.8	77.2	75.4	233.8	99.6	85.1	89.6	273.4
新庄	6.2	1.4	-1.3	2.1	195.4	210.9	181.4	587.5	62.1	37.3	43.1	142.2
酒田	9.0	4.3	1.5	4.9	223.9	201.9	152.6	582.9	80.4	44.8	39.9	165.2
福島	9.0	4.2	1.4	4.8	63.4	32.5	43.8	140.2	130.6	130.7	136.6	398.0
若松	7.0	1.9	-0.7	2.7	73.3	83.3	80.9	239.0	88.3	72.0	80.9	239.7
白河	7.6	2.7	0.2	3.5	65.0	25.0	30.6	121.3	146.4	157.8	160.9	464.1
小名浜	10.8	6.1	3.6	6.8	87.7	35.0	46.2	174.1	160.2	184.8	189.6	533.4

	降雪量(cm)			
	11月	12月	1月	11月～1月
青森	40	170	250	463
深浦	13	77	123	215
むつ	21	101	175	302
八戸	8	52	95	154
秋田	13	79	142	236
盛岡	11	68	106	187
大船渡	2	11	23	36
宮古	1	19	43	63
仙台	1	14	29	43
石巻	1	7	13	21
山形	12	92	163	269
新庄	28	168	283	483
酒田	10	64	138	213
福島	2	35	86	125
若松	9	100	185	297
白河	2	25	58	87
小名浜	0	1	5	5

欠測により平年値を求めるための資料年数（観測値のある年数）が各月毎に異なることなどにより、3か月平年値等が各月の平年値から求めた値と一致しないことがあります。

（2）1971～2000年のデータに基づいたこの予報期間の地域平均の気温、降水量、降雪量の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要素	予報対象地域	11月	12月	1月	11月～1月
気温平年差( )	東北地方	-0.3～+0.5	-0.3～+0.5	-0.3～+0.8	-0.3～+0.5
	東北日本海側	-0.3～+0.5	-0.2～+0.6	-0.3～+0.7	-0.2～+0.5
	東北太平洋側	-0.3～+0.6	-0.1～+0.5	-0.3～+0.8	-0.2～+0.5
降水量平年比(%)	東北地方	80～107	80～107	81～103	86～105
	東北日本海側	92～103	88～106	93～109	94～101
	東北太平洋側	68～111	69～116	62～104	80～104
降雪量平年比(%)	東北地方	45～86	72～112	85～106	76～108
	東北日本海側	45～114	78～113	96～110	84～104
	東北太平洋側	27～60	57～114	72～102	74～115

## ＜参考資料（利用上の注意）＞

（1）気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間ににおける各階級の出現率が等分（それぞれ33%）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（2）予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30%、40%）の確率しか付けられません。

（3）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。

# 東北地方 3か月予報解説資料 (11~1月)

平成20年10月23日 仙台管区気象台

## 1. 向こう3か月の確率予報の特徴

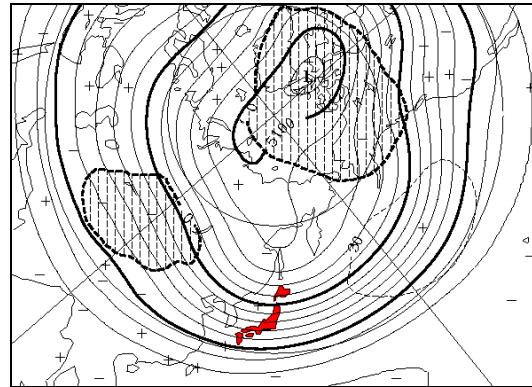
	気温	降水量
11~1月	各階級の確率の偏りは小さい	各階級の確率の偏りは小さい
11月:	各階級の確率の偏りは小さい	各階級の確率の偏りは小さい
12月:	各階級の確率の偏りは小さい	各階級の確率の偏りは小さい
1月:	平年並または高い確率がともに40%	東北日本海側では各階級の確率の偏りは小さい。 東北太平洋側では平年並または多い確率がともに40%
11~1月の東北日本海側の降雪量は、平年並または少ない確率がともに40%		

寒候期予報の見直しについて: 最近の天候経過と新しい予測資料をふまえ寒候期の天候について検討しましたが、9月25日に発表した寒候期予報の内容に変更はありません。

## 2. 数値予報(アンサンブル予報)による大気の流れの予想

### 3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図(右図):

予想図では、極域から西半球側が負偏差(平年より高度が低く、一般に寒気に対応)で寒気蓄積傾向。日本付近は広く正偏差(平年より高度が高く、暖気に対応)となる。ただし、高緯度の寒気の動向は不確定性が大きいことから、寒気の影響も考慮する。



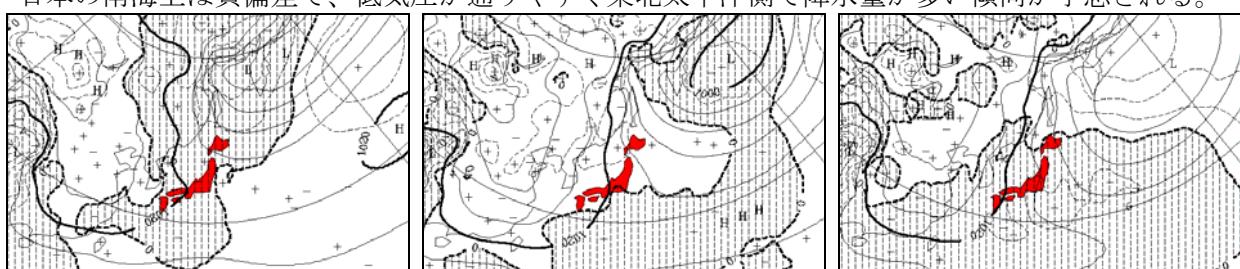
3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図  
実線は等高度線60m毎、点線は偏差30m毎  
陰影部は負偏差(一般に寒気に対応)

### 月別の地上気圧と偏差の予想図(下図):

11月: 日本の北の負偏差がやや強く低気圧が通過しやすい。低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置となる。東北日本海側では平年と同様に曇りや雨の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多い見込み。

12月: シベリア高気圧、アリューシャン低気圧ともに強い予想。平年と同様に冬型の気圧配置となる日が多い見込み。

1月: アリューシャンの低気圧は正偏差で発達は弱く、冬型の気圧配置は長続きしない見込み。日本の南海上は負偏差で、低気圧が通りやすく東北太平洋側で降水量が多い傾向が予想される。

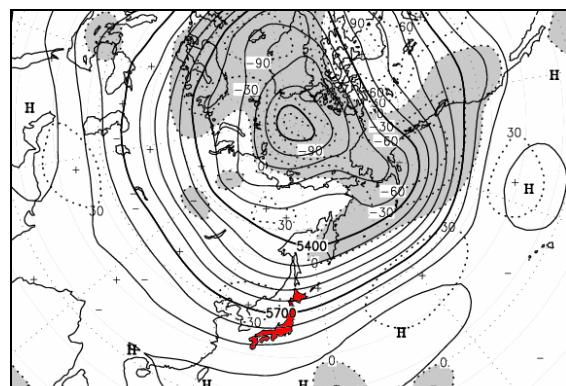


月別の地上気圧と偏差の予想図(左から11月、12月、1月)  
実線は等圧線4hPa毎、点線は偏差1hPa毎、陰影部は負偏差

## 3. 今月の循環場の特徴

10月(20日まで): 500hPa高度では、北極域やベーリング海は負偏差となったが、日本付近を含む中緯度帯は広く正偏差におおわれた。また、日本の南海上も正偏差となった。

東北地方は、期間のはじめに気温が平年を下回る日があったものの、その後は気温の高い日が多かった。

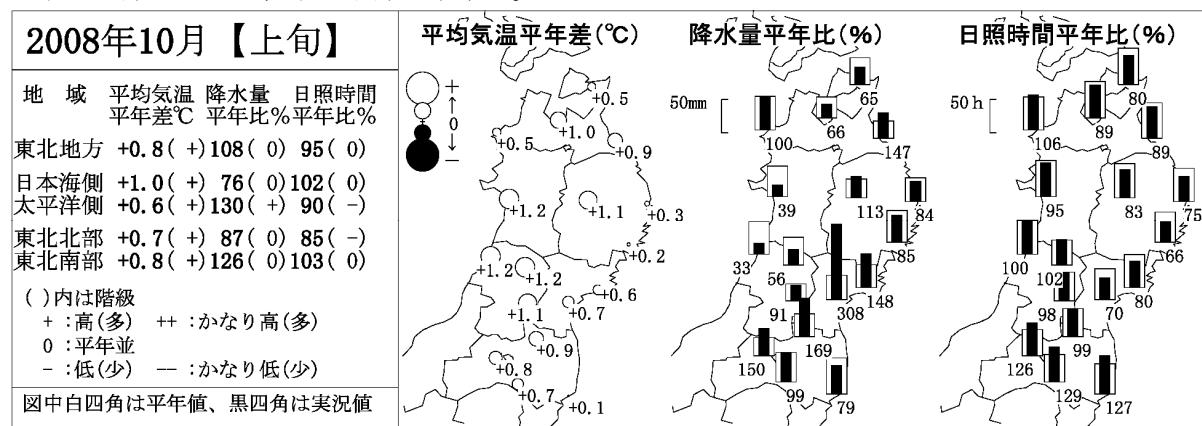


10月1日~20日の平均500hPa高度  
実線は等高度線60m毎、点線は偏差30m毎、陰影部は負偏差

#### 4. 最近の天候経過

10月上旬：天気は数日の周期で変化したが、東北太平洋側では、期間の後半は南岸低気圧や湿った東よりの風の影響により曇りや雨の日が多かった。

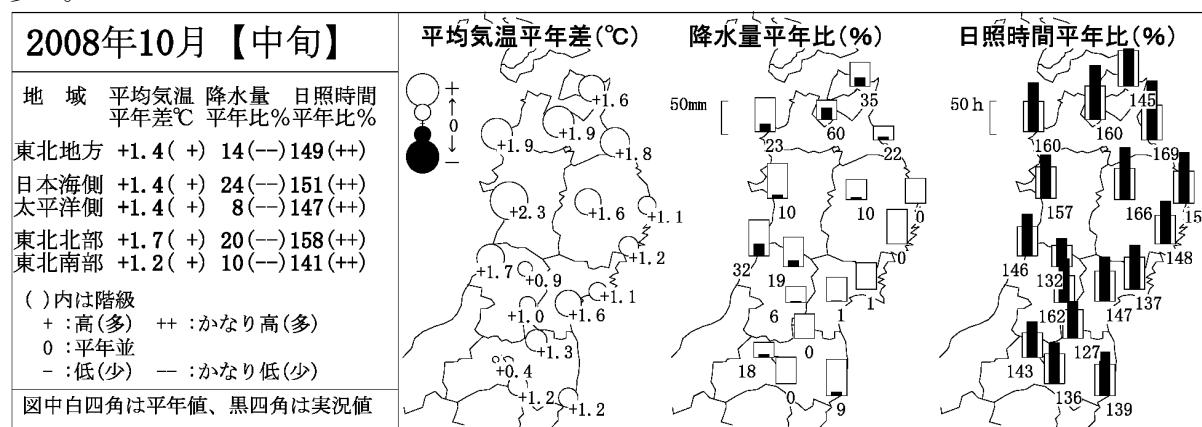
平均気温は東北地方で高い。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。日照時間は東北北部で少なく、東北南部で平年並。



東北地方における10月上旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）

10月中旬：期間のはじめと中頃に一時、前線や寒気、湿った東よりの風の影響で曇や雨となる日があった他は、高気圧におおわれて晴れる日が多かった。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北地方でかなり少ない。日照時間は東北地方でかなり多い。

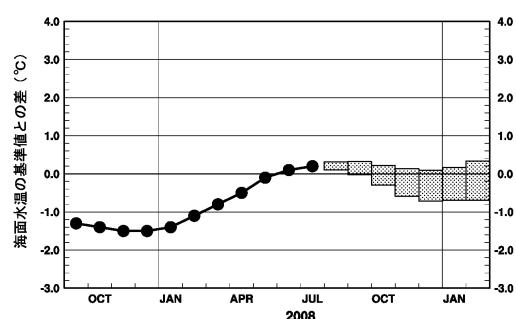


東北地方における10月中旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）

#### 5. 太平洋赤道域の海水温等の状況、及びエルニーニョ現象等の今後の見通し

エルニーニョ監視海域の海面水温は基準値に近い値だった。太平洋赤道域の海面水温は、西部と東部で正偏差、中部では負偏差だった。海洋表層（海面から深度数百mまでの領域）の水温は、中部の負偏差が強まり、西部の正偏差が持続した。

エルニーニョ監視海域の海面水温は、今後基準値に近い値で推移すると予測される。今後冬にかけてエルニーニョ現象あるいはラニーニャ現象が発生する可能性は低い。



#### ＜参考資料＞

平年の天気出現日数（日）

エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差の推移（折れ線グラフ）と今後の予測（ボックス）

	11月		12月		1月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	9.2	17.7	5.4	18.7	5.3	19.7
雨の日	15.8	8.1	19.1	6.6	19.6	7.1

晴れの日、雨の日は、それぞれ「日照率40%以上の日数」、「日降水量1mm以上の日数」を用いている。